

高卒若年女性の労働と生活

——若者の〈学校から仕事へ〉の移行に関するインタビュー調査から——

杉田 真衣

(東京都立大学大学院・博士課程)

1. 問題関心

1990年代以降、若者の〈学校から仕事へ〉の移行が不安定化していることが指摘されている（たとえば乾編 2006）。この不安定化の影響は、若者に一様に及んでいるわけではない。そこで本報告では、報告者らが行っている調査の結果をもとに、現在とりわけ不安定な立場に置かれている低所得層の若者に焦点をあてて、「貧困」という視点から、彼ら彼女らの労働と生活の状況を明らかにすることを試みる。その際、低所得層の若者の中でも、女性のケースに注目する。なぜなら、同じ若者の中でも、女性は男性よりも不安定な状況に置かれていると考えられるからである。

2. 調査の対象と方法

インタビュー調査は、東京都立大学「高卒者の進路動向に関する調査」グループによって、都内の二つの公立普通科高校、「中位校」のA高校と「底辺校」であるB高校を2003年3月に卒業した若者たちを対象として、経年的に行っているものである。

1回目調査（高3次）は、2002年10～12月に、3年生89名（女性52名、男性37名）を対象として行った。2回目調査（高卒1年目）は、2003年10月～2004年3月に、前回の対象者のうち52名と彼ら彼女らの友人2名の計54名（女性26名、男性28名）を対象に行った。3回目調査（高卒3年目）は、2005年10月～2006年3月に、1、2回目調査の対象者のうち38名と、今回初めて調査に協力してくれた2名の40名（女性22名、男性18名）を対象に行った。

3. 調査結果の概要

インタビューデータの分析から浮かび上がったことは、まず、高校卒業後に非正規雇用手となる者は、男性よりも女性の方がはるかに多いということである。正規で就職しても、過酷な労働条件から早くに離職せざるを得ず、その後は正規の職につくことができずにいた者は、男性よりも女性に多くいた。

次に、高校卒業後に出産し、専業主婦となった女性がいたことや、調査時に未婚であっても結婚願望を強く抱く女性がいたことから、女性にとっては結婚が標準的なライフコースとして認識されていることがうかがえた。しかしながら、若者が結婚して新しく家族をつくることができるかどうかは、経済的な安定性に大きく左右されていた。

調査結果の詳細については、当日に資料を配布して報告する。

〔参考文献〕

乾彰夫編・東京都立大学「高卒者の進路動向に関する調査」グループ著(2006)

『18歳の今を生きぬく』青木書店

乾彰夫編著(2006)『不安定を生きる若者たち』大月書店